様式Ｆ－１９

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成２４年　５月１０日現在

機関番号：12601
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2011～2011
課題番号：23652020
研究課題名（和文）　自然の分析美学――自然・環境・アルス
研究課題名（英文）　Analytical Aesthetics of Nature－Nature, Environment, Ars
研究代表者 西村 清和（NISHIMURA KIYOKAZU）
東京大学大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：50108114

研究成果の概要（和文）：本研究は「自然」「環境」「風景」といった基本概念を分析哲学の方法を用いて精査した上で、これらの基本概念を自然美、風景、廃墟、人造自然、われわれの内なる自然をテーマとするアブジェクト・アート、環境アート（エコ・アート）といった具体的な美的現象や美的経験、また現代アートの記述・分析に適用することで、近代美学や現代の環境美学がまだ十分に解明するにはいたらない上記の問題群を解明することをめざした。その成果は、平成 23 年 11 月に出版された単著『プラスチックの木でなにが悪いのか――環境美学入門』（勁草書房）のかたちで公開された。

研究成果の概要（英文）：This project aimed to give a clear definition by means of analytical philosphy to the basic notions of nature, environment and landscape, and to apply those notions to such phenomena as the aesthetic appreciation of nature, landscape or ruins, abject art, environmental art. As a result, a book Plastic no Ki de Naniga Warui-noka (Kiyokazu Nishimura, What is Wrong with Plastic Trees?, Keiso-Shobo, 2011) was published.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
交付決定額	1,400,000	420,000	1,820,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：哲学、美学・美術史
キーワード：自然、分析美学、環境美学、アート、環境論

１．研究開始当初の背景

芸術を中心に構築されてきた近代以降の美学・芸術哲学においては、自然、風景、環境における美的現象や美的経験はともすれば無視されてきた。この問題は、70 年代以降、欧米の環境保護論、環境倫理の研究がすすむなかで、環境美学として論じられつつあるものの、日本の美学研究においてはまだ目だった研究はほとんどないのが実情である。また欧米における研究でも前提されている「自然」「風景」「環境」といったコンセプト自体が混乱しているために、十分な成果を上げているとはいいがたい。本研究はその新たなコンセプトを提示し、これらに関わる美的現象

や美的経験を記述・分析するために近代美学を脱構築することに挑戦するものである。

２．研究の目的

本研究は、すでに基盤研究（A)「生活場所（ビオトープ）の美学――自然・環境・美的文化」（2007－2010)において私が提出しておいた「ネイチャー・ワールド」というコンセプトを導きの糸として風景、場所、廃墟といった概念を構築しつつ、他方で近代美学における「美的（感性的）なもの」の概念を、近代美学の死角であった「味覚」「嗅覚」「醜」をも視野にいれつつ脱構築することで、自然美、風景美、庭園、プラスチックによる人工風景の倫理性、場所の記憶と廃墟、野生を超出した人間にとっての超越としての肉体の「内なる自然」のおぞましさと現代のアブジェクト・アートの問題性、リヒターのような現代アートにおける人工（アルス）と自然の相関、多様な環境アートないしエコ・アートが依拠する自然観とその有効性といった、現代においてなお未開拓でもっとも先鋭な問題群の解明を目的としている。

３．研究の方法

本研究で私がとる主たる方法は、分析美学である。日本における美学・芸術学の領域に関してはなおヨーロッパ系の伝統がつよく、分析美学のたんなる紹介ではない独自の研究書はほとんどないのが実情である。本研究で最終的に公刊をめざしている著書は「自然の分析美学」をテーマとするものであり、日本における分析美学の体系的な研究成果としても挑戦的な企てである。

４．研究成果

本研究は、まず上記の基本概念を分析哲学の方法を用いて精査した上で、これらの基本概念を自然美、風景、廃墟、人造自然、われわれの内なる自然をテーマとするアブジェクト・アート、環境アート（エコ・アート）といった具体的な美的現象や美的経験、また現代アートの記述・分析に適用することで、近代美学や現代の環境美学がまだ十分に解明するにはいたらない上記の問題群を解明することをめざした。これによってえられた具体的な研究成果の相当部分は、平成 23 年 11 月に出版された単著『プラスチックの木でなにが悪いのか――環境美学入門』（勁草書房）のかたちで公開され、前者の本についてはたとえば日本経済新聞紙上での書評（平成 24 年 2 月 11 日）で極めて高く評価された。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

①西村清和、「〈内なる自然〉の美学――醜をめぐって」、『美学芸術学研究 29』（東京大学美学芸術学研究室）、査読無、2011, 85-116

②西村清和、The Aesthetics of Abject Art, JTLA (Journal of the Faculty of Letters. The University of Tokyo. Aesthetics), vol. 35, 2011, 13-25

〔学会発表〕（計 1 件）

①西村清和、「アブジェクト・アートはアートか？」、美学会シンポジウム、2011 年 4 月 23 日、ヨコハマ創造都市センター）

〔図書〕（計 1 件）

①西村清和、勁草書房、プラスチックの木でなにが悪いのか――環境美学入門、2011、416

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
西村清和（NISHIMURA KIYOKAZU）
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：50108114
(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：